

4パーミル・イニシアチブ農産物等認証制度の野菜・水稲への拡大

県では、農業分野から地球温暖化の抑制に貢献する「4パーミル・イニシアチブ」の取り組みを拡大するため、生産された農産物などを、脱炭素社会の実現に貢献する農産物として認証する「やまなし4パーミル・イニシアチブ農産物等認証制度」を制定し、この取り組みを推進しています。

これまでの認証制度は果樹を対象としてきましたが、この取り組みをさらに拡大するため、新たに野菜と水稲の認証基準を制定しました。

野菜や水稲では、緑肥や堆肥などの有機物の施用やバイオ炭の投入など土壌に炭素を貯留する取り組みに加え、温室効果ガスである亜酸化窒素やメタンの発生を抑制する取り組みを併せて実践していただきます。

この認証を取得していただくと、ロゴマークの使用が可能となります。また、温室効果ガスの削減を図りながら生産された「環境に配慮した農産物」としてイメージアップにつながります。



4パーミル・イニシアチブ農産物等認証制度の野菜・水稲への拡大



これまでの認証基準は**果樹**のみ

○土壌貯留（炭素）

草生栽培、堆肥などの有機物投入、バイオ炭の投入 等



野菜・水稲の認証基準を追加

○土壌貯留（炭素）

緑肥、堆肥などの有機物投入、バイオ炭の投入 等



○温室効果ガス（亜酸化窒素・メタン）発生抑制

野菜 局所施肥、肥効調節型肥料の利用、マルチの利用 等
水稲 中干しの延長、稲わら秋すき込み 等



※炭素貯留とともに、温室効果ガスの発生抑制にも取り組む

農業分野からの積極的な対策で温暖化の抑制・脱炭素社会の実現に貢献

気象災害に備えて

気象庁によりますと、現在ラニーニャ現象の発生が観測され、冬の半ばにかけて続く可能性が高まっています。ラニーニャ現象がおきますと、冬型の気圧配置が強まることが多く、気温が低く、大雪になる可能性があります。

そのため、農作物への影響も大きくなる恐れもあるため、最新の気象予報を確認し、被害等を出さないよう注意して下さい。



過去の大雪での被害（ハウスの倒壊）

「技術資料」 山梨県 HP> 農政部> 農業技術課> 農業気象災害
<https://www.pref.yamanashi.jp/nougyo-gjt/kisyousaigai.html>
「農業用ハウスと果樹棚の雪害防止対策指針」
「施設園芸における省エネルギー対策のポイント」

山梨県普及センターだより

編集&発行：山梨県農政部農業技術課
〒400-8501 甲府市丸の内一丁目6-1
TEL:055-223-1619 FAX:055-223-1622
<http://www.pref.yamanashi.jp/nougyo-gjt/>
E-mail:nougyo-gjt@pref.yamanashi.lg.jp

No. 56
令和4年12月20日発行

水稲新品種「にじのきらめき」の普及に向けた取り組み

農業革新支援スタッフ【作物】

近年、平坦地を中心に夏期の高温の影響による品質低下が問題となっています。産地のJAからも高温に対して耐性のある品種の導入が望まれていました。

センターでは、高温に耐性のある品種「にじのきらめき」の県内における適応性について地域普及センターやJAと連携して令和3年から4年の2カ年にわたり、各地で現地試験を実施してきました。

その結果、地域の主力品種である「コシヒカリ」に比較して倒伏が少なく収量が多いとともに、玄米の外観品質も優れるという結果が得られました。また、食味についても「コシヒカリ」と同等という評価が得られました。

この結果を受けて、産地JAも本格的な導入に向けて取り組んでいることから、現在、県の奨励品種への採用や産地品種銘柄への指定に向けた手続きを行っています。

「にじのきらめき」の栽培に関心のある方はお近くの地域普及センターまたはJAにお問い合わせ下さい。



水稲新品種「にじのきらめき」

飼料価格高騰に対応した飼料増産の取り組み

農業革新支援スタッフ【畜産】

飼料価格は、世界的なとうもろこしの需給逼迫に加え為替相場の影響により急騰し、畜産経営は大変厳しい状況にあります。また、世界の人口増加による食料需要の増大、主要輸出国の異常気象による生産減少、コロナ渦における輸入飼料の停滞等、県産畜産物の安定供給に影響を及ぼす様々なリスクが顕在化しています。

こうした状況の中、県産自給飼料の生産拡大や放牧利用の推進と併せ、耕種農家との連携による飼料用米、稲発酵粗飼料（WCS）、稲わらなど県産飼料資源の利用拡大が益々重要になります。

農業革新支援センターでは、国産飼料を基盤にした畜産経営を支援するとともに、関係機関や団体と飼料増産の取り組みを一層推進していきます。



飼料作物優良品種の現地検討会



稲わらの飼料利用

中北地域普及センター

県オリジナル品種「ブラックキング」の高品質・安定生産に向けて

甲府市内の露地ブドウは、立地を生かし県内でいち早く出荷が行われるなど、有利販売が行われています。しかし近年、地球温暖化の影響で、着色が十分に進まないことが問題となっています。そこで、普及センターでは、高温でも着色しやすい県オリジナル品種「ブラックキング」の産地化に向けて支援しています。具体的には、実証ほを設け、生育状況の把握、摘粒や摘房などの管理方法の確認、現地検討会などを行い、地域に適応した栽培技術の実証に取り組んでいます。



「収穫直前のブラックキング」



実証ほでも極大粒(ゴルフボール大)を確認

さらに、令和元年度に果樹試験場で開発された「極大粒化技術」では、開花期に強い摘心を行い、粒数を通常より少なくすることで、30gを超える果粒が生産できる実証も行っております。見た目のインパクトが絶大で、他のブドウとの差別化が期待されています。普及センターでは、今後も継続して高品質化と安定生産技術の確立に向けて取り組んでいきます。

峡南地域普及センター

「あけぼの大豆」優良種子の安定確保に向けた取り組み支援

在来種「あけぼの大豆」の特性を引き継ぐ優良種子の生産は、地理的表示制度（GI）に基づく基準になっています。来年の生産に向けて生産者に優良な種子を供給することを目的に、在来種大豆保存会、あけぼの大豆振興協議会、身延町と連携して、種子生産者のほ場巡回を実施しました。9月には病害虫による被害株や葉の形状が在来種と異なる異型株、11月には莢にしわが入った株の抜き取りを行いました。今年は、6月下旬の少雨による出芽不良や8月中旬～9月下旬の多雨、日照不足による草丈の徒長や着莢数の少ないほ場が散見されましたが、来年度の需要に対応できる種子は確保できる見通しです。

優良種子の確保は、「あけぼの大豆」の安定生産と生産拡大にとって不可欠であることから、今後も関係機関で連携した支援を継続していきます。



種子生産ほ場巡回の様子



抜き取ったしわ莢粒

峡東地域普及センター

ブドウ優良品種の更なる高品質化に向けて

峡東地域普及センターでは、生産拡大が進むブドウ主要品種の更なる高品質化を進めるため、生産現場が抱える課題解決に向けた技術実証に取り組んでいます。

「シャインマスカット」では、開花期に花蕾が異常生育して奇形果となる「開花異常症」への対策として、異常症の発生が少ない上部支梗を用いて生産量を確保する技術実証に取り組んでいます。

また、県オリジナル品種の「ブラックキング」では、黒系他品種との差別化を図り高付加価値販売に繋げるための「極



検討会の様子

大粒化技術の実証」に取り組む、果実品質にもたらす効果等の把握に努めました。

いずれの技術実証もJA営農指導員との検討会を開催し、これらの技術普及に向け、実証効果や新たな課題を整理・共有したことで、今後の指導に活かしていくことになりました。

引き続き、関係機関と連携し現地実証を行うとともに、生産者への技術普及を進め、本県を代表する果樹産地の発展と農家所得の向上に取り組んでいきます。



上部支梗で対策したシャインマスカット

富士・東部地域普及センター

「共同菜園ボランティア」の活動支援による多様な担い手の確保

都留市においては、農業の新たな担い手を掘り起こすことを目的に、市社会福祉協議会が「共同菜園ボランティア『畑楽（はたらき）もん』」を立ち上げ、活動しています。「畑楽もん」では、農業体験を通じた参加者の生きがいづくりのため、また将来的には道の駅などへの出荷者になることを期待して、定期的な講習会の開催や当番制での共同菜園の管理を行っています。

普及センターでは、栽培品目の決定や年間計画の作成に助言をするとともに、基礎知識や栽培技術を習得するための講習会の講師を担うなど、未経験者でも楽しんで農業に取り組めるように支援しています。



栽培講習会の様子



播種作業の様子

これまで、ナスやキュウリ、コマツナ、ジャガイモといった約20種類の野菜を栽培しており、収穫した野菜は市内の子ども食堂に食材として配付されています。参加者からは「子どもたちに喜んでもらえて嬉しい」「今後も野菜の栽培に取り組みたい」といった前向きな感想が聞かれており、「畑楽もん」の活動は次年度以降も継続される予定となっています。

普及センターでは、農業の新たな担い手を確保するため、今後こうした掘り起こしに向けた取り組みに対して支援して参ります。